

平成16年度（第48回）  
岩手県教育研究発表会発表資料

特 別 活 動

学校生活への適応と主体的な選択を促す  
中学校学級活動の進め方に関する研究  
－ガイダンスの機能を生かした指導計画の作成をとおして－

研究協力校  
花巻市立湯口中学校

平成17年2月9日  
岩手県立総合教育センター  
教科領域教育室  
藤 原 良 治

〈 目 次 〉

|     |  |    |
|-----|--|----|
| I   | 研究目的                                     | 1  |
| II  | 研究の方向性                                   | 1  |
| III | 研究の年次計画                                  | 1  |
| IV  | 本年度の研究の内容と方法                             | 1  |
| 1   | 研究の目標                                    | 1  |
| 2   | 研究の内容                                    | 1  |
| 3   | 研究の方法                                    | 1  |
| 4   | 研究の対象                                    | 1  |
| V   | 研究結果の分析と考察                               | 2  |
| 1   | ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画の作成                | 2  |
| (1) | 学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する基本的な考え方 | 2  |
| (2) | ガイダンスの機能を生かした指導計画を作成することについての基本的な考え方     | 2  |
| (3) | 学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する推進試案    | 3  |
| (4) | ガイダンスの機能を生かした3年間の学級活動の指導計画               | 5  |
| (5) | ガイダンスの機能を生かした各学年の学級活動の指導計画               | 6  |
| (6) | ガイダンスの機能を生かした単位時間の学級活動の指導計画              | 8  |
| 2   | ガイダンスの機能を生かした指導計画の作成や指導実践の推進にかかわる留意事項    | 8  |
| (1) | 各学校の条件を踏まえた指導計画の作成                       | 8  |
| (2) | 校内の組織体制と指導計画作成までの年間の推進日程                 | 9  |
| (3) | 指導実践の計画的、組織的な推進にかかわる組織体制と連絡調整            | 9  |
| 3   | ガイダンスの機能を生かした指導計画に基づく指導実践とその分析・考察        | 10 |
| (1) | 分析・考察の内容と方法                              | 10 |
| (2) | 指導実践の計画                                  | 10 |
| (3) | 指導実践記録                                   | 10 |
| (4) | 指導実践をとおしてみた指導計画案の活用について                  | 14 |
| (5) | 指導実践結果の分析・考察                             | 16 |
| 4   | 学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する研究のまとめ  | 19 |
| (1) | 成果                                       | 19 |
| (2) | 課題                                       | 19 |
| VI  | 研究のまとめ                                   | 19 |
| 1   | 研究の成果                                    | 19 |
| 2   | 今後の課題                                    | 20 |
|     | [おわりに]                                   |    |
|     | 【引用文献】                                   |    |
|     | 【参考文献】                                   |    |
|     | 【補充資料】                                   | 22 |

## I 研究目的

学習指導要領第1章総則において、新たに「生徒が学校や学級での生活によりよく適応するとともに、現在及び将来の生き方を考え行動する態度や能力を育成することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、ガイダンスの機能の充実を図ること」が示された。これを受けて、第4章特別活動において「学校生活への適応や人間関係の形成、選択教科や進路の選択などの指導に当たっては、ガイダンスの機能を充実するよう学級活動等の指導を工夫すること」が求められている。

しかし、これまでもガイダンスの機能を生かした指導が展開されてはきたものの、意図的、計画的に行われることが少なく、学校生活に十分適応できずに人間関係にかかわる問題を抱える生徒や、学習における選択に当たって目的意識をもてず適切に対応できない生徒も見られる。

このような状況を改善するためには、特別活動の学級活動における生徒一人一人の可能性を開発するようなガイダンスの機能を生かした指導計画を作成し、生徒が豊かな人間関係のなかで有意義な生活を築き、主体的に選択や決定が行えるようにしていくことが必要である。

そこで、この研究は、ガイダンスの機能を生かした指導計画の作成をとおして、学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方を明らかにし、中学校における学級活動の指導の改善に役立てようとするものである。

## II 研究の方向性

学校生活への適応と主体的な選択を促す学級活動の指導の進め方の改善に資するため、ガイダンスの機能を生かす場面や、機能を充実させるための工夫点、学級活動の題材とのかかわりに着目し、3年間の系統性・発展性に配慮した学級活動の指導計画を作成し提示することとする。

## III 研究の年次計画

この研究は平成15年度から平成16年度にわたる2年次研究である。

### 第1年次（平成15年度）

学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する基本的な考え方の検討、基本構想の立案、推進試案の作成、指導計画の作成

### 第2年次（平成16年度）

指導計画に基づく指導実践とその分析・考察、学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する研究のまとめ

## IV 本年度の研究の内容と方法

### 1 研究の目標

中学校学級活動において、ガイダンスの機能を生かした指導計画に基づいて指導実践を行い、その結果の分析と考察をとおして、学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方の妥当性について検討し、明らかにする。

### 2 研究の内容

- (1) ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画の作成  
第1年次に作成した推進試案に基づき、ガイダンスの機能を生かした単位時間の学級活動の指導計画案を作成する。併せて、3年間の指導計画案と各学年の指導計画案を修正する。
- (2) ガイダンスの機能を生かした指導計画の作成や指導実践の推進にかかわる留意事項  
第1年次の研究で課題となった、「指導計画の作成や指導実践の推進を学校全体で計画的、組織的に進める際の、校内の組織体制の在り方」と「指導計画案を各学校で運用する上での留意点」を整理する。
- (3) ガイダンスの機能を生かした指導計画に基づく指導実践とその分析・考察  
ガイダンスの機能を生かした単位時間の学級活動の指導計画案に基づいた指導実践を行う。その結果について、担任教師（指導教師）へのアンケートを基に分析・考察する。
- (4) 学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する研究のまとめ  
ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画に基づいた指導実践の成果と課題をまとめ、学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方の妥当性について明らかにする。

### 3 研究の方法

- (1) 質問紙法  
研究協力校の教師を対象とした調査を指導実践後に行い、学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する妥当性の検討に役立てる。
- (2) 指導実践  
ガイダンスの機能を生かした指導計画案を用いた学級活動の指導実践を行い、妥当性について確かめる。

### 4 研究の対象

研究協力校 花巻市立湯口中学校

## V 研究結果の分析と考察

### 1 ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画の作成

学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する基本的な考え方とそれに基づく基本構想及び推進試案、3年間の学級活動の指導計画と各学年の学級活動の指導計画（第1次案）については、本研究の第1年次（平成15年度）に明らかにした。この第1年次の研究の内容は、第2年次の研究内容である「中学校学級活動におけるガイダンスの機能を生かした指導計画」の作成の基盤となるものであり、以下にその概略を示す。

#### (1) 学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する基本的な考え方

適応とは、自らが暮らす生活環境に対して、物的関係や人的関係において積極的にかかわってよりよく順応し、精神的にもうまく合致している状況ととらえる。また、主体的な選択とは、さまざまな問題に出会った時に、自らのもちうる情報や解決法を基に、自らの意志と責任でより適切な選択や決定をすることととらえる。以上のことを踏まえ、「学校生活への適応と主体的な選択」について、本研究では次のようにとらえることとする。

- 一人一人の生徒が学校や学級の生活に積極的にかかわってよりよく適応し、豊かな人間関係の中で好ましい人間関係を形成し有意義な生活を築くようにすること。〔適応にかかわるとらえ〕
- 学業や進路あるいは自己の生き方等にかかわって、自らの意志と責任でより適切な選択やよりよい自己決定ができるようにすること。〔選択にかかわるとらえ〕（「学習指導要領解説—総則編—」p.90より部分引用）

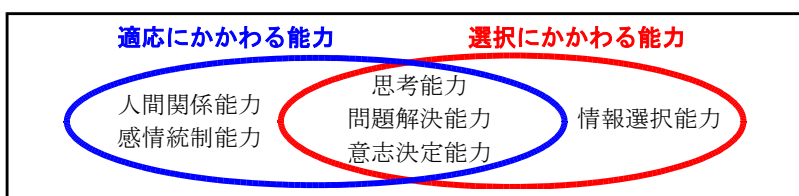
これらのことは、ガイダンスの機能の充実がねらうところに一致するものであり、それは同時に、生徒の自己指導能力を高めていくことでもある。すなわち、「学校生活への適応と主体的な選択」の能力を高めることは自己指導能力を高めることであり、これらのことにかかわる能力として、人間関係能力、感情統制能力、思考能力、問題解決能力、意志決定能力、情報選択能力の六つを上げることができる。この六つの能力については、【表1】のようにとらえることができる。

【表1】学校生活への適応と主体的な選択にかかわる六つの能力

|        |   |
|--------|---|
| 人間関係能力 | 人とのかかわりを意識的につくる能力                       |
| 感情統制能力 | 自分の思い通りにならない状況に陥っても、感情を統制し、冷静に状況を判断する能力 |
| 思考能力   | 他からの指示や知識に頼るのではなく、自分で適切に考えることのできる能力     |
| 問題解決能力 | 自分の保有するさまざまな解決の方法を繰り出して問題を解決する能力        |
| 意志決定能力 | さまざまな情報の中から、必要なものを選び自信と勇気をもって決定する能力     |
| 情報選択能力 | 情報を選択し、自分の生き方を方向付ける能力                   |

〔注〕 表中のゴシックは、それぞれの能力の中核となる語句を表す

本研究が目指す、生徒の「学校生活への適応と主体的な選択」における「適応にかかわる能力」及び「選択にかかわる能力」と【表1】の六つの能力との関係については、右の【図1】のようにとらえることとする。



【図1】学校生活への適応と主体的な選択にかかわる六つの能力の関係

#### (2) ガイダンスの機能を生かした指導計画を作成することについての基本的な考え方

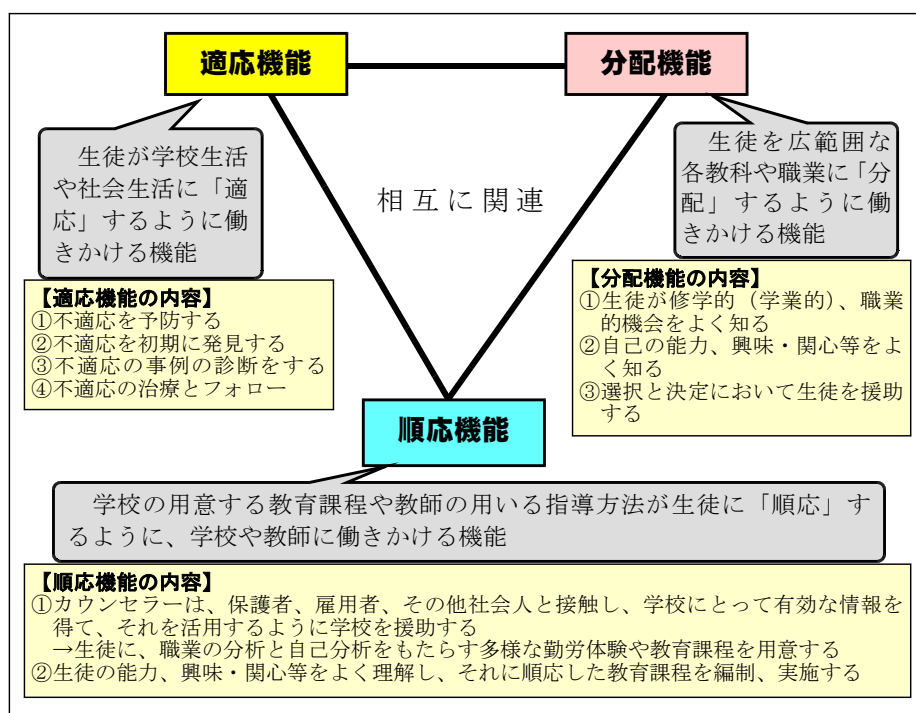
##### ア ガイダンスの機能を生かした指導計画を作成することの意義

生徒の「学校生活への適応と主体的な選択」を促すため、学級活動はもとより、中学校教育全体の指導の具体的な改善の方策として学習指導要領に「ガイダンスの機能の充実」が示された。「ガイダンス」は、「案内、指導、手引き、学生指導」といった意味であり、学習指導要領解説の特別活動編（p.82）には右のように規定されている。

- 生徒のよりよい適応や選択にかかわる、集団場面を中心とする指導・援助であり、生徒一人一人を最大限に開発しようとするもの。

また、ガイダンスには、「適応機能」、「分配機能」、「順応機能」の三つの機能があり、それぞれの働きや相互の関係をまとめると、次頁の【図2】のようになる。順応機能は教師や

学校へ働きかけるものであり、これがなされて、適応機能と分配機能が作用するのだが、三者はあくまでも一体のものである。一方、適応機能と分配機能は、直接生徒に働きかけるものであり、適応機能は「学校生活への適応」に、分配機能は「主体的な選択」に合致する。そこで、「学校生活への適応と主体的な選択」のために「ガイダンスの機能の充実」が学習指導要領に示された。



【図2】ガイダンスの三つの機能

この、ガイダンスの機能を生かす上では、生徒の活動に対して適切な情報提供や案内・説明、体験活動、各種の援助・相談活動などを学校全体として進めることが必要である。ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画を作成し、それに基づいた指導を展開することによって、学校生活への適応や主体的な選択が促されるばかりでなく、生徒に自己指導の力が身に付き、生涯にわたって自己実現していくことにつながるものと考えられる。

#### イ ガイダンスの機能を生かした指導計画作成の視点

ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画は、一つ一つの活動の系統性・発展性に留意し、学校として計画的、組織的に行うように組まれていなければならない。そのための指導計画作成の視点として、右の六点を考える。

- ・学校生活への適応と主体的な選択を促すためにガイダンスの機能を生かす場面
- ・学習指導要領の学級活動の内容例とガイダンスの機能を生かす題材とのかかわり
- ・ガイダンスの機能を生かす題材の系統性・発展性
- ・ガイダンスの機能を充実させるための工夫点（指導内容や指導方法等）
- ・全教師の協力のもとでの展開
- ・3年間を見通した展開

### (3) 学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する推進試案

#### ア 推進試案の作成に当たり基本としておさえること

学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する推進試案の作成に当たっては、①学校全体の計画的・組織的な取組によってガイダンスの機能を充実させるように進めることが重要である。さらに、②3年間の系統性・発展性を踏まえた計画を作成すること、③学校教育目標や目指す生徒像を確認し、全教師の共通理解と協力のもとに進めることも常に念頭に置きながら進めることが大切である。

#### イ 推進試案の作成にかかわるガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画の見直しの視点と作成の仕方

##### (ア) 現在使用している学級活動の指導計画の見直しと修正

現在使用している学級活動の指導計画を、生徒や地域の実態等、学校の特徴を踏まえつつ、次の視点から見直し、必要に応じて修正する。

- ① 学校行事や生徒会行事等との整合性が図られているか。適時性は図られているか。
- ② ガイダンスの機能の充実のために指導すべき題材はもれなく位置付いているか。その系統性や適時性はどうか。

この点に関しては、次の(イ)と(ロ)とも並行して進める必要がある。

##### (イ) ガイダンスの機能を生かす場面の検討

次頁【表2】のような場面で、ガイダンスの機能の充実を図る指導の工夫を一層進める必要がある。

【表2】ガイダンスの機能を生かす場面

| 生かす場面                             |                    | 特徴的な事項  | どのような配慮や工夫が必要か   |
|-----------------------------------|--------------------|---|--|
| 生徒が学校生活やそこでの人間関係などによりよく適応する指導において | 入学時や新学期開始時期        | 新生活への期待の一方で環境の変化への不安が交錯し、生徒の精神状態が不安定になる傾向がある。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>できる限り不安を取り除き、新生活への夢や希望を膨らませるようにする</li> <li>教師と生徒及び生徒相互の好ましい人間関係が生まれるように配慮する</li> <li>生徒自身が学校や学級における諸活動や集団の意義、内容などについて十分に理解し、自発的によりよい生活に取り組むことができるように必要に応じて十分な指導時間を確保する</li> </ul> |
|                                   | 新たな学習や各種の学習活動の開始時期 | 学習や諸活動に意欲的に取り組むことができない要因としては、目的を明確にもつことができなかった場合や、やり方が分からない場合、見通しがもてない場合、人間関係に不安がある場合等が考えられる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>新たな学習活動や諸活動が始まる前の段階では、左記の点に配慮して事前指導を十分に行い、生徒がこれから始まる学習活動や諸活動に、意欲をもって積極的かつ主体的に取り組むことができるようにする</li> <li>学習指導や学習活動及び諸活動で使用した資料を整理し、適宜修正を加えて引き継いでいく</li> </ul>                        |
| 選択教科や進路等の選択の指導において                | 選択教科等に関して          | 生徒各自が、必ずしも自己の興味・関心や意志に基づいて選択しているとは言い難く、結果的に自ら選択した選択教科の学習に意欲的でない面もある。                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>学習活動のねらいや内容及び方法、よりよい選択の仕方や考え方等についての理解を図り、生徒の学習意欲を喚起して主体的に学習に取り組むことができるよう工夫する</li> <li>指導の時間を十分に確保するため、学級活動の時間の他に、選択教科等の時間の一部を充てるなどの工夫をする</li> </ul>                               |
|                                   | 進路の選択に関して          | 進路の問題は、絶えず選択の連続であり、しかも中学校卒業時のみならず一生涯にわたるものでもある。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人が自己理解を深め、自己の将来の生き方を考え卒業後の進路を主体的に選択し、積極的に自己実現を図っていくことができるような指導の工夫をする</li> <li>進路指導にかかわるガイダンスの場や機会が、従来のままで十分であるかどうか、何についてのガイダンスを、いつ、どのような形で、どれだけ行っていくかを吟味する</li> </ul>        |

(ウ) 学習指導要領に示された学級活動の活動内容例とガイダンスの機能を生かす題材とのかかわり

学習指導要領には、学級活動の活動内容が三つ示され、それぞれについてより具体的な活動内容例が示されている。これらの学級活動の活動内容例とガイダンスの機能を生かす題材とのかかわりを、「学習指導要領解説－特別活動編－」と先行研究を基にして、【表3】のように考えた。

(エ) 「適応にかかわる能力」及び「選択にかかわる能力」との関係

2頁の【表1】【図1】の六つの能力を、学年レベルと単位時間レベルの指導計画案に位置付ける。

(オ) ガイダンスの機能を充実させるための工夫点

最後に、ガイダンスの機能を充実させるための工夫として、【表4】の

五つの観点に沿って学級活動の指導計画案（3年間、各学年、単位時間の指導計画）を再度見直し、ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画を完成させる。

【表3】学習指導要領に示された学級活動の活動内容例とガイダンスの機能を生かす題材とのかかわり

| 学級活動の活動内容                         | 学級活動の活動内容例  |
|-----------------------------------|---|
| (1) 学級や学校の生活の充実と向上に関すること          | ア <b>学級や学校における生活上の諸問題の解決</b><br>イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理<br>ウ <b>学校における多様な集団の生活の向上</b>   |
| (2) 個人及び社会の一員としての在り方、健康や安全に関すること  | エ <b>青年期の不安や悩みとその解決</b><br>オ 自己及び他者の個性の理解と尊重<br>カ 社会の一員としての自覚と責任<br>キ 男女相互の理解と協力<br>ク <b>望ましい人間関係の確立</b><br>ケ ボランティア活動の意義の理解<br>コ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成<br>サ 性的な発達への適応<br>シ 学校給食と望ましい食生活の形成 |
| (3) 学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択に関すること | ス <b>学ぶことの意義の理解</b><br>セ <b>自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用</b><br>ソ <b>選択教科等の適切な選択</b><br>タ <b>進路適性の吟味と進路情報の活用</b><br>チ 望ましい職業観・労働観の形成<br>ツ <b>主体的な進路の選択と将来設計</b>                                     |

「注」 **ゴシック**の活動内容例が、ガイダンスの機能を生かせる題材

【表4】ガイダンスの機能を充実させるための工夫点

| ガイダンスの機能を充実させるための工夫点                | 主にどの計画レベルで検討するか |
|-------------------------------------|-----------------|
| ア ねらいの明確化                           | 単位時間の計画レベル      |
| イ 適時、適切な場での活動（3年間の中での位置付け）          | 3年間の計画レベル       |
| ウ よりよい内容（適切な内容）                     | 3年間の計画レベル       |
| エ 効果的な方法（指導方法や活動形態、他の教育活動との連携）      | 各学年の計画レベル       |
| オ 学校のもつ教育力の発揮（全教員、上級生、卒業生、地域の人材の活用） | 単位時間の計画レベル      |

ウ ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画に基づく指導実践とその後の指導計画の修正

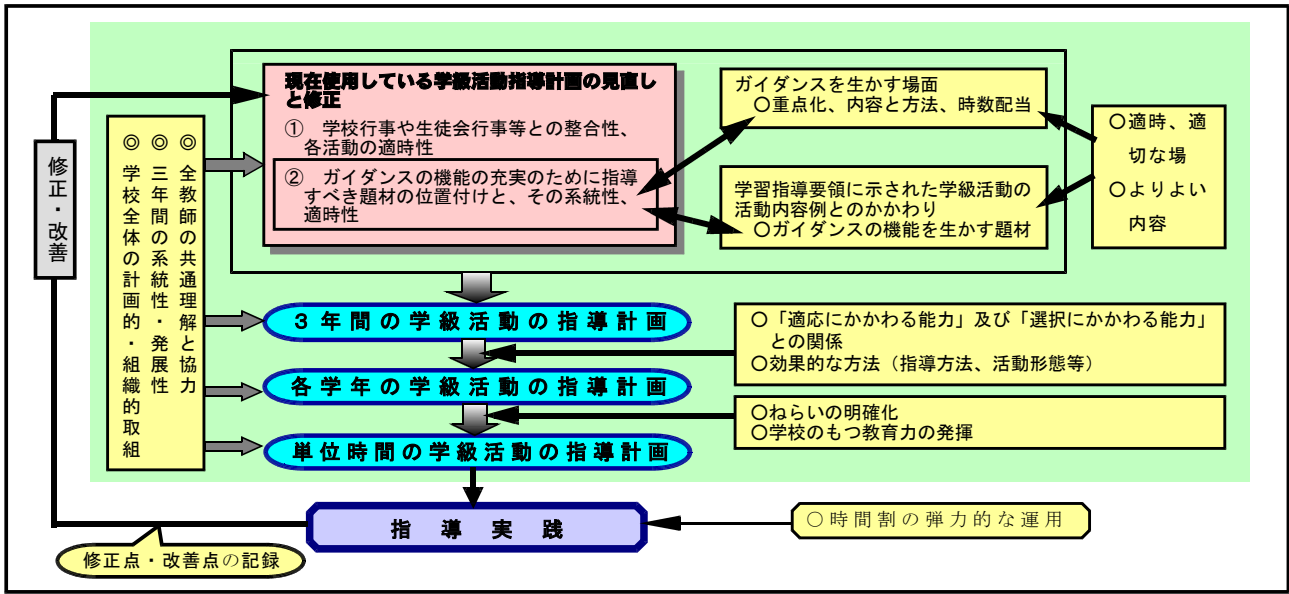
作成した学級活動の指導計画に基づいて指導実践を行った後は、指導計画を再検討し、修正を加えていく。そのために、毎時間の指導実践後に指導計画に修正すべき点や改善すべき点を記録する。

このような指導実践と指導計画の修正のサイクルを着実に行うことによって、学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動を進めることができるものとする。



エ 推進試案

これまで述べてきたことを踏まえて、学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する推進試案を、【図3】のようにまとめた。



【図3】学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する推進試案

(4) ガイダンスの機能を生かした3年間の学級活動の指導計画

「ガイダンスの機能を生かした3年間の学級活動の指導計画案」については、推進試案に基づいて、【表5】のように作成した（昨年度提示した指導計画案について、単位時間の指導計画案との整合性を考慮して修正したものの一部である）。この表では、ガイダンスの機能を生かして「学校生活への適応と主体的な選択を促す」学級活動の題材に絞って、題材配列一覧表の形で示してある。表中の「題材名」については、研究協力校の学級活動年間計画表及び日本進路指導協会編「中学生生活と進路」を基にした。なお、「別冊資料」に、3年間の指導計画案作成の具体的手順や関連資料（「題材配列検討シート」）、及び各題材間の系統性・発展性の関係を付加した図を示す。

【表5】ガイダンスの機能を生かした3年間の学級活動の指導計画案（部分）

| 月 | 主な行事   | 第1学年        |    |    | 第2学年          |    |    | 第3学年         |    |    |
|---|--|-------------|----|----|---------------|----|----|--------------|----|----|
|   |  | 題材名         | 適応 | 選択 | 題材名           | 適応 | 選択 | 題材名          | 適応 | 選択 |
| 4 | ・始業式<br>・入学式<br>・生徒会オリエンテーション<br>・3年修学旅行<br>・応援歌練習<br>・体育祭 | 1中学生になって    | ◎  |    | 12年生になって      | ◎  |    | 13年生になって     | ◎  |    |
|   |  | 2 3中学校とは何か  | ◎  |    | 2学級目標を決めよう    | ○  |    | 2学級目標を決めよう   | ○  |    |
|   |  | 4学級目標を決めよう  | ○  |    | 3 4学級組織作り     | ○  |    | 3修学旅行の準備     |    | ○  |
|   |  | 5 6学級組織作り   | ○  |    | 5選択教科で自分を伸ばそう |    | ◎  | 4学級組織作り      | ○  |    |
| 5 | ・生徒総会<br>・中間テスト  | 7選択教科を選ぼう   |    | ◎  | 6体育祭に向けて      | ◎  | ○  | 5自分で選ぶ選択教科   |    | ◎  |
|   |  | 8体育祭に向けて    | ◎  | ○  | 7             |    |    | 6体育祭に向けて     | ◎  | ○  |
|   |  | 9           |    |    | 8自分を高める学習     | ○  | ◎  | 8 3年生の学習     | ○  | ○  |
| 6 | ・地区中総体<br>・期末テスト   | 10中学生の学習    |    | ◎  | 9             |    |    | 9            |    |    |
|   |  | 11          |    |    | 10            |    |    | 10何のために学ぶのか  | ○  | ◎  |
|   |  | 12望ましい学習方法  | ○  | ◎  | 11            |    |    | 11学級の充実と改善   | ◎  |    |
| 7 | ・県中総体<br>・期末面談<br>・終業式                                     | 13          |    |    | 12人はなぜ働くのか    |    | ◎  | 12 13先輩の姿に学ぶ |    | ◎  |
|   |  | 14私達の将来の希望1 |    | ◎  | 13人はなぜ学ぶのか    | ○  | ◎  |              |    |    |
|   |  | 15私達の将来の希望2 |    | ◎  | 14一学期の学級反省    | ○  |    | 14一学期の反省     | ○  |    |
|   |  | 16一学期の学年反省  | ○  |    | 15一学期の学年反省    | ○  |    | 15生き方について考える |    | ◎  |
|   |  | 17班・係の活動反省  | ○  |    | 16夏休みの生活設計    | ○  |    |              |    |    |
|   |  | 18夏休みの生活設計  | ○  |    |               |    |    |              |    |    |

【注1】◎印は適応や選択にかかわりの深い題材、○印は適応や選択にかかわりのある題材／【注2】■ 1つで1単位時間を表す

(5) ガイダンスの機能を生かした各学年の学級活動の指導計画

「ガイダンスの機能を生かした各学年の学級活動の指導計画案」については、前頁【表5】で示した3年間の指導計画案に基づき、各学年ごとに、「学級活動の題材」と「指導のねらい」・「指導の方法」・「指導の留意点」との関係、「学校生活への適応と主体的な選択にかかわる六つの能力」との関係が付加して作成した。主要資料は日本進路指導協会編『中学生生活と進路』指導書（1～3年）である。

本頁と次頁にわたり、【図4】として、第1学年の「ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画案」の部分を示す。これは、昨年度提示した計画案について、単位時間の指導計画案との

| 月  | 主な行事   | 第1学年           |     |     | 題材グループ名                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>■：指導のねらい</li> <li>◎：指導の方法</li> <li>▲：指導の留意点</li> </ul>  |
|----|--|----------------|-----|-----|-----------------------------------|--|
|    |  | 題材名            | 活動種 | 誌・歌 |                                   |  |
| 4  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・始業式</li> <li>・入学式</li> <li>・生徒会オリエンテーション</li> <li>・3年修学旅行</li> <li>・応援歌練習</li> <li>・体育祭</li> </ul> | 1中学生になって       | ア、ク | ◎   | <b>中学校生活の出発(含:選択教科)</b>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>■中学校生活に少しでも早く慣れさせ、希望と意欲をもって学習や諸活動、毎日の生活に臨む心構えと決意をもたせる。</li> <li>◎オリエンテーション計画による指導。</li> <li>▲新しい生活への不安を取り除き、学級への所属感をもたせて学校生活への意欲を高める。</li> <li>▲中学校の活動の組織や内容を理解させ、進んで活動に参加しようとする意欲と態度を養うように努める。</li> </ul>  |
|    |  | 2 3中学校とは何か     | ア、ク | ◎   |                                   |  |
|    |  | 4学級目標を決めよう     | イ、ク | ○   |                                   |  |
|    |  | 5 6学級組織作り      | イ、ク | ○   |                                   |  |
|    |  | 7選択教科を選ぼう      | ソ、ク | ◎   |                                   |  |
| 5  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒総会</li> <li>・中間テスト</li> </ul>  | 8体育祭に向けて       | ア、ウ | ◎   | <b>私たちの学級</b>                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>■生徒達の主体性と自主性を培い、充実した学校生活を送る基盤を築かせる。</li> <li>■学級経営の基盤、人間関係を円滑にする基盤となる学級組織の在り方を考えさせ、活発に活動できる学級組</li> </ul>   |
|    |  | 9              |     |     |                                   |  |
|    |  | 10中学生の学習       | ス   | ◎   |                                   |  |
| 6  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区中総体</li> <li>・期末テスト</li> </ul>   | 11             |     |     | <b>中学校の学習と将来の生き方</b>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>■学ぶことの意義や目的を考えさせ、将来に希望をもって意欲的に学んでいこうとする態度を育てる。</li> <li>■自己の学習を振り返らせ、望ましい学習方法と学習習慣を身に付けていこうとする意欲をもたせる。</li> <li>■進路学習の概略をとおして職業や進路の多様性に気付かせ、将来設計をとおして進路意識を高めさせる。</li> <li>◎先輩の学習計画の紹介、教科担任との連携。</li> <li>▲学ぶことが将来の「生き方」に深くかかわることに気付かせる。</li> <li>▲将来の夢や希望の実現のための中学校生活の在り方を考えさせる。</li> </ul> |
|    |  | 12望ましい学習方法     | セ   |     |                                   |  |
| 7  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・県中総体</li> <li>・期末面談</li> <li>・終業式</li> </ul>   | 13             |     |     | <b>学級生活のなかで</b>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>■二学期の大きな流れを把握させ、学校生活への早期の適応を図らせながら、望ましい人間関係を確立させる。</li> <li>◎一学期末の反省とアンケートを基にした話し合い。</li> <li>▲集団生活が人間形成に果たす役割の重要性を理解させる。</li> </ul>  |
|    |  | 14私達の将来の希望1    | ツ   | ◎   |                                   |  |
|    |  | 15私達の将来の希望2    | ツ   | ◎   |                                   |  |
| 8  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・始業式</li> <li>・地区陸上大会</li> </ul>  | 16一学期の反省       |     | ○   | <b>働く人びとに学ぶ</b>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>■身近に働く人びとの姿や考え方に触れることにより、職業選択能力や職業観・勤労観を育成する。</li> <li>◎職場訪問のロールプレイング、職場訪問学習の事前学習。</li> </ul>   |
|    |  | 17班・係の活動反省     |     | ○   |                                   |  |
|    |  | 18夏休みの生活設計     |     | ○   |                                   |  |
| 9  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区新人戦</li> <li>・中間テスト</li> </ul>   | 19夏休みの収穫       | ア、ウ | ◎   | <b>自分を知ろう</b>                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎保護者の声や友達からの手紙を基にした「自分の特色」のまとめ、個性と職業についての話し合い。</li> <li>▲互いの個性を認め合う中で自己のよさを理解させる。</li> </ul>  |
|    |  | 20二学期の計画       |     |     |                                   |  |
|    |  | 21 22働く人々のすがた  | チ   | ○   |                                   |  |
| 10 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会立会演説会</li> <li>・県新人戦</li> <li>・文化祭</li> </ul>   | 23働く人々の仕事と考え1  | チ   | ○   | <b>自主的な行動をしよう</b>                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■心身の発達の不均衡からくる不安や悩み、自己嫌悪などの問題のとらえ方や解決法を知り、積極的に解決させる。</li> <li>◎いらいらや不安・悩みのアンケートを基にした話し合い。</li> <li>▲自分の心身の成長に着目させ、集団の一員としての心構えを考えさせ、自己を積極的に生かしていく意欲や態度を育てる。</li> </ul>  |
|    |  | 24働く人々の仕事と考え2  | チ   | ○   |                                   |  |
|    |  | 25文化祭の取り組み     | ア、ウ | ◎   |                                   |  |
| 11 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・県新人戦</li> <li>・(総合[発表会])</li> <li>・期末テスト</li> </ul>  | 26             |     |     | <b>将来の進路希望を実現させるためには適切な進路計画が必</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■将来の進路希望を実現させるためには適切な進路計画が必</li> </ul>  |
|    |  | 27人と個性         | タ   | ○◎  |                                   |  |
|    |  | 28自分の特色、友達のよさ  | タ   | ◎   |                                   |  |
| 12 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学期反省</li> <li>・期末面談</li> <li>・終業式</li> </ul>   | 29             |     |     | <b>自分を知ろう</b>                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎保護者の声や友達からの手紙を基にした「自分の特色」のまとめ、個性と職業についての話し合い。</li> <li>▲互いの個性を認め合う中で自己のよさを理解させる。</li> </ul>  |
|    |  | 30健康で安全な生活     |     | ○   |                                   |  |
|    |  | 31二学期の反省       |     | ○   |                                   |  |
| 1  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・始業式</li> </ul>   | 32休みの生活設計      |     | ○   | <b>自分を知ろう</b>                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎保護者の声や友達からの手紙を基にした「自分の特色」のまとめ、個性と職業についての話し合い。</li> <li>▲互いの個性を認め合う中で自己のよさを理解させる。</li> </ul>  |
|    |  | 33冬休みの反省と新年の決意 | エ   | ◎   |                                   |  |
|    |  | 34悩みとその解決      | エ   | ◎   |                                   |  |

【図4】第1学年の「ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画案」(部分)



整合性を考慮して修正したものである。(各学年の指導計画案の全容については、「別冊資料」に示す。)

【図4】中の「学校生活への適応と主体的な選択にかかわる六つの能力」は、「ガイダンスの機能を生かす題材」の3年間の系統性・発展性を見ていく指標や、各題材(活動)での評価の観点にもなるものとする。

また、各学年の年度初めにおいては、生徒が学級や学校の生活及びそこでの人間関係などに、よりよく適応するように、十分な時間を確保しながら学校全体で意図的、計画的に指導する必要がある。そこで、各学年の年度初めのオリエンテーション期間における「ガイダンスの機能を生かした学級活動」と他の教育活動との関連を図った指導展開の具体案を作成し、別冊資料に示すこととした。

| 適 応 に か か わ る 能 力   |   |  | 選 択 に か か わ る 能 力   |  |  |
|---|---|--|---|--|--|
| 人間関係能力  | 感情統制能力  | 思考能力   | 問題解決能力  | 意志決定能力   | 情報選択能力   |
| <p>1, 2 自分から進んでコミュニケーションをとる。<br/>1 級友への理解を深める。</p>                  | <p>1 中学校生活や新しい友達に対する不安を取り除く。</p>  | <p>1, 2, 7 中学校生活への希望や抱負をもつ。</p>  | <p>2, 3 集団の中で楽しい学校生活を送るための方策(相談など)を知り、</p>                  | <p>3 中学校の学習や活動の特色を知り、意欲的に取り組む。</p>   |  |
| <p>各能力の白抜き反転数字の番号は、題材名の前の反転数字の番号に同じで、どの題材のときにどの能力がかかっているかを示している</p> |   |  |   |  |  |
| <p>4 明確な目標や責任をもって活動する。<br/>5, 6 互いの存在や個性を尊重して組織作りを行う。</p>           | <p>4 異なる役割や立場も、集団の一員としての立場を自覚し、行動する。</p>  | <p>4 自分という願いや考えをもつ。</p>  | <p>4 学級集団の在り方を考え、話し合いで学級目標/学級組織を決定する。</p>                   | <p>4 みんなの願いを踏まえて学級目標を決める。<br/>5, 6 自分にふさわしい役割に進んで取り組み、責任を果たす。</p>              |  |
|   |   | <p>10 何のために学ぶのかということについて考える。<br/>12 これまでの自己の学習生活を振り返る。</p>                                       | <p>12 学習計画や学習方法について自ら工夫していく。</p>                            | <p>10, 14, 15 将来の夢や希望をもち、意欲的に学ぼうという志をもつ。<br/>12 苦手教科の克服や日常の学習を継続するよう努力をする。</p> | <p>12 自己の学習の反省や級友の反省から学習の工夫を知り、意欲を高める。<br/>14, 15 多様な進路及び生涯学習の場や機会を知り、3年間の進路学習の見直しをもつ。</p>   |
| <p>19 自分と級友との交わり方を見つめ直す。</p>  | <p>19 夏休みの生活や学習が本意に終わっても、その気持ちを引きずらないように心掛ける。<br/>20 新学期に当たった不安を取り除く。</p>       | <p>19 夏休みの目標や計画に沿って夏休みを振り返り、成果と課題を明確にする。</p>   | <p>20 学級生活をよりよくするための工夫や計画についての話し合いで積極的に意見を述べる。</p>          | <p>20 話し合いで決定したことを踏まえ、集団生活の中で自分を生かしていく意欲をもつ。</p>                               | <p>21 働く人びとの姿は職業によって多様であることを知り、職業に対する視野を広げる。<br/>22 働く人びとの姿を調査する際の一般的な準備や質問項目について理解する。<br/>23 自らの職業観・勤労観の基礎を築く。<br/>24 職場訪問学習報告会の情報を、職業選択能力や自らの職業観・勤労観の拡充に生かす。</p> |
| <p>24 職員と協力して職場訪問学習の報告を行う。</p>                                      |   | <p>21 職業を仕事の内容からとらえる。<br/>22 働く人びとへ調査活動の疑似体験をとおして、訪問調査の仕方やマナーを考える。<br/>23 人は何のために働いているのか考える。</p> | <p>23 働く人びとの職業観や勤労観を参考にして、自分の希望する職業をとらえ直す。</p>              | <p>24 職場訪問学習報告会で学んだことを基に、これからの中学校生活での心掛けを決意する。</p>                             |  |
| <p>グレーの網掛けは、適応にかかわる要素が強い題材グループ</p>                                  |   |  |   |  |  |
| <p>27 互いの個性の中で、を理解していく。</p>   |   |  | <p>28 自身の個性を将来の職業に生かして行こうとする気持ちをもつ。</p>                     | <p>27 自分を知るための内容や方法を理解することで、個性と進路の関係に気付く。</p>                                  |  |
| <p>33 級友同士で、互いに理解し、敬愛し、励まし合う中で、自分を高める。</p>                          | <p>33 新学期に当たった不安を取り除く。<br/>34 心身の発達の不均衡からくる不安や悩みを負けず、自己を肯定的にとらえ、積極的に生かしていく。</p> | <p>34 行動面での変化から心身の発達に伴う心の変化について見つめ直す。</p>  | <p>34 心身の発達の不均衡からくる不安や悩みは、誰もが経験する自我の目覚めであることを知り、解決していく。</p> | <p>33 中堅学年に向けて1年生の締めくくりにしっかりと行う気持ちをもつ。</p>                                     | <p>36 インターネットで就きたい(興味のある)職業に就くまでのコ</p>   |
|   |   | <p>36 「20年後の自分」</p>  | <p>37 進路計画の必要性に</p>   | <p>36 自己を生かすため</p>   |  |

【図4】の右頁

(6) ガイダンスの機能を生かした単位時間の学級活動の指導計画

「ガイダンスの機能を生かした単位時間の学級活動の指導計画案」については、5頁【表5】に基づき、各題材ごとの具体的な指導計画を、学習展開案の形で示すこととした。

この指導計画案（学習展開案）は、①目標、②ガイダンスの機能（適応／選択）にかかわる能力、③指導上の工夫（留意点）、④展開、⑤事後指導の五つで構成した。その際、目標とガイダンスの機能（適応／選択）にかかわる能力及び指導上の工夫（留意点）については、各学年の学級活動の指導計画案を基にして作成した。また、4頁【表4】で示したガイダンスの機能を充実させるための工夫点が明らかになるように留意した。

このようにして作成した、第1学年、第2学年、第3学年それぞれの学年の、各単位時間の学級活動の指導計画案を「別冊資料」に示す。

なお、この中から、研究協力校において指導実践して頂いた第1学年の4月の計画案（適応にかかわる指導計画案）と第3学年の8、9月の計画案（主に選択にかかわる指導計画案）の一部を、10頁からの「指導実践の概要とその分析・考察」において提示する。

## 2 ガイダンスの機能を生かした指導計画の作成や指導実践の推進にかかわる留意事項

(1) 各学校の条件を踏まえた指導計画の作成

各学校でガイダンスの機能を生かした指導計画を作成する際には、本研究の推進試案で示した視点と手順の他に、各学校の生徒の実態等と、以下の諸点に留意する必要があると考える。

ア 三学期制か、二学期制か

これは、学期の節目や長期休業前後の適応指導にかかわって留意すべき点である。

三学期制の場合は学期の節目に長期休業が位置しており適応指導も一体的に進めることが可能である。これに比べて二学期制の場合は、学期の節目と長期休業の時期がずれるため、学期の節目での適応指導はそれほど問題にならないが、長期休業前後の適応指導が不十分になる危険性があると考えられる。

イ 学級編成替えを行うかどうか

これは、2・3年生の年度初めの適応指導にかかわって留意すべき点である。

学年が単学級であったり、学校の方針として2・3年生への進級時の学級編成替えを行わない場合は、人間関係作りの面での適応指導はそれほど問題はないと思われる。しかし、それであっても、年度初めの学級作りやその年度（またはその学期）の見通しをもたせること等にかかわる適応指導は十分に行う必要がある。

ウ 学区の小学校は2校以上か、1校か

これは、特に1年生の入学時点での適応指導、特にも好ましい人間関係作りにかかわって留意すべき点である。

2校以上の小学校から生徒が入学してくる場合は、互いに羞恥心や警戒心が働いたり、出身小学校毎のグループでまとまったりと、新しい人間関係を築く上でこの時期・学年特有の障壁がある。こうした点に配慮し、できるだけ早い時期に和やかな雰囲気の中で一人一人の生徒の自己開示や他者理解、相互の交流が促されるような機会を設ける必要がある。

なお、1校の小学校からの入学であっても、すでに小学校段階で人間関係に問題を抱えている場合には、中学校という新しい環境を契機にして心機一転を図らせる指導を特別に工夫する必要がある。

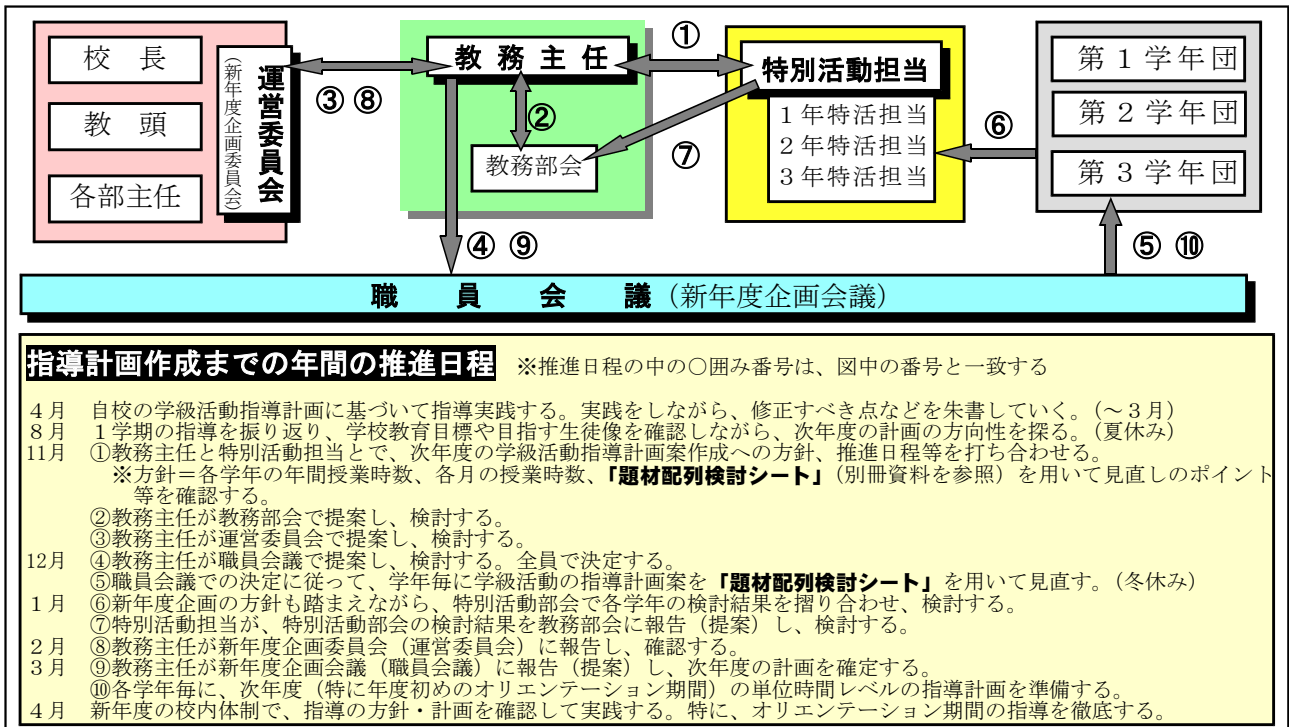
エ 選択教科の開設状況はどうなっているか

これは、選択教科の選択の指導場面設定にかかわって留意すべき点である。

例えば、通年での選択教科の開設の場合と、前期・後期に分けて開設する場合とでは、当然指導場面設定や指導時数・方法が異なる。また、本指導計画案では、学校のもつ教育力の発揮を意図して、選択教科の選択に当たって関係教員がそれぞれの選択教科の説明をしたり、資料として前年度の先輩の活動記録や生の声を活用したりする方法を提案したが、教員の人的構成によっては年度毎に選択教科の開設状況が変わり、こうした工夫が難しいことが想定される。そうした場合には、例えば、試行学習期間を数回設け、その間に個別の相談活動を充実させるなどして主体的な選択を促すことが肝要と考える。

(2) 校内の組織体制と指導計画作成までの年間の推進日程

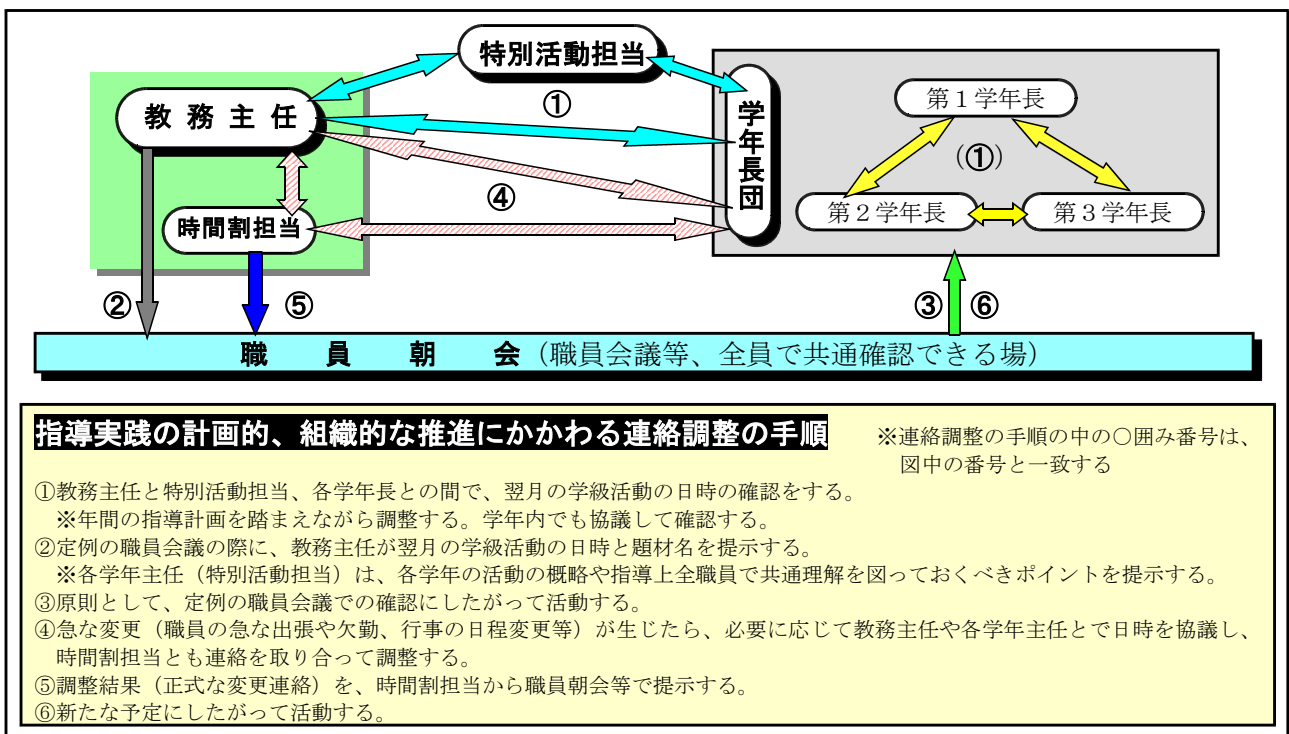
各校においてガイダンスの機能を生かした指導計画を作成するに当たっては、本研究の推進試案で示した視点と手順に基づいて進めることになると思われる。その際、全教職員の共通理解と協力のもとに学校全体の計画的・組織的な取組として進めるために、校内の組織体制と年間推進日程を考えておく必要がある。その概要案を、次の【図5】のように考えた。



【図5】校内の組織体制と指導計画作成までの年間の推進日程の概要

(3) 指導実践の計画的、組織的な推進にかかわる組織体制と連絡調整

指導効果を一層高めるためには、指導計画案に基づきながらも、時間割の弾力的な運用等によって実際の指導がより適時に適切な形で実施されるように工夫することが肝要と考える。そのための組織体制と連絡調整の概要案を次の【図6】のように考えた。



【図6】指導実践の計画的、組織的な推進にかかわる組織体制と連絡調整の概要

### 3 ガイダンスの機能を生かした指導計画に基づく指導実践とその分析・考察

#### (1) 分析・考察の内容と方法

学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する推進試案に基づいて作成した「ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画案」により指導実践を行う。その後で、研究協力校の教師を対象に「ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画案の妥当性（研究の方向性とのかかわり、よかったところ、改善すべき点）」、「学校生活への適応にかかわる生徒の状況」、「主体的な選択にかかわる生徒の状況」、「その他」に関して評定尺度法と自由記述法併用のアンケートを行い、それに基づいて分析・考察する。その計画は【表6】のとおりである。

【表6】分析・考察の内容と方法

| 調査項目            | 対象 | 調査内容  | 調査方法 | 処理・解釈の方法  |
|-----------------|----|---|------|---|
| 指導計画案の妥当性       | 教師 | 指導計画案と研究の方向性とのかかわり、指導計画案のよかったところ、指導計画案の改善・修正点 | 質問紙  | 指導実践後に調査し、その記述内容から、指導計画案の妥当性（研究の方向性とのかかわり、作成した指導計画案のよかったところ、改善すべき点）について分析・考察する。 |
| 学校生活への適応にかかわる状況 | 教師 | 教師がとらえた、生徒の学校生活への適応にかかわる状況                    | 質問紙  | 指導実践後に調査し、その記述内容から、生徒の学校生活への適応にかかわって効果が見られたかどうかとその根拠について分析・考察する。                |
| 主体的な選択にかかわる状況   | 教師 | 教師がとらえた、生徒の主体的な選択にかかわる状況                      | 質問紙  | 指導実践後に調査し、その記述内容から、生徒の主体的な選択にかかわって効果が見られたかどうかとその根拠について分析・考察する。                  |

「注」 教師用アンケート用紙は、巻末の「補充資料」参照。

#### (2) 指導実践の計画

指導実践は、研究協力校に対して研究の概要と指導計画案を提示し、各学年毎に単位時間の指導計画案の活用可能な部分を積極的に活用して指導して頂いた。そして、実際に指導に活用した指導計画案については気付いた点を朱書して頂いた。

また、特に学校・学級生活への適応にかかわって第1学年の4月の指導実践を、主体的な選択にかかわって第3学年の8、9月の指導実践を参観させて頂いた。

なお、3年間の学級活動の指導計画案と各学年毎の指導計画案についても検討し、気付いた点を朱書して頂いた。

#### (3) 指導実践記録

第1学年と第3学年での指導実践の概要は以下の【表7】【表8】、【資料1】～【資料4】のとおりである。

【表7】第1学年の指導実践日時と題材名及び指導の内容

| 日 時       | 題 材 名     | 指 導 の 内 容  |
|-----------|-----------|--|
| 4月6日 1校時  | 中学生になって   | 前日の入学式で宿題にしていた「自己紹介カード」を基に、新しい友達とのコミュニケーション活動を行う。  |
| 4月6日 2校時  | 中学校とは何か   | 全校集会の形で、中学校生活の心得や約束事を学ぶ。                           |
| 4月7日 1校時  | 学級組織作り①   | 学級組織作りに当たっての留意点と進め方について確認した上で、学級組織を決定する。           |
| 4月7日 2校時  | 学級組織作り②   |  |
| 4月20日 1校時 | 学級目標を決めよう | 16日に事前アンケートを実施し、これを受けてグループ毎に一次案を考え、学級全体で練り上げて決定する。 |

【表8】第3学年の指導実践日時と題材名及び指導の内容

| 日 時        | 題 材 名       | 指 導 の 内 容  |
|------------|-------------|--|
| 8月18日 1校時  | 二学期の計画      | 二学期の大きな流れを、行事を中心に確認し、学級として頑張っていくことを決定する。                   |
| 8月23日 5校時  | 進路先の調査①     | 上級学校訪問のガイダンス（事前説明会）を行う。                                    |
| 8月24日 1校時  | 自分を見つめ直す    | 自己理解を深め、自分の諸特性を進路選択に生かしていく決意をより強くする。                       |
| 9月13日 5校時  | 進路先の調査②     | 上級学校訪問の、事前学習として、訪問先での質問を作る。                                |
| 10月13日 5校時 | 学習の課題や悩みの解決 | 学習の不安や悩みの事前調査を基にそれらをどうやって克服するか、グループ討議やピア・カウンセリングを取り入れて考える。 |